創刊にあたって

名古屋大学総合保健体育科学センター長
松井秀治

名古屋大学総合保健体育科学センターではすでに年報を発刊し，教育活動を含めたその業務の状況について公にしているが，此の度，新たに本センターの今一つの重要な内容である研究活動について，独自の研究ジャーナルを発刊することとした。かかる研究ジャーナルを企図した所以は，本センターを中心とする研究の成果を集録し，本センター創設の主旨の研究面からの拡充発展を進めることにある。

改めていうまでもなく，名古屋大学が全国の大学に先駆けてかかる施設の設置を具現したのは，大学の保健および体育の担う，教育，研究，保健管理等の専門業務の総合的推進をねらってのことであり，その成否は業務の一体化とともに，研究面での総合保健体育科学の進展にかかっているといってよい。

保健および体育は科学としてそれぞれ獨自な発展をたどってきた。

すなわち，保健は教育集団や職場，地域等における教育事象をも含めた伝染性疾患の予防的対応の科学として先づその展開をみた。今世紀半ば以後の社会組織の複雑化にともなう人間生活の多様化は，予防的対応の枠を一般的疾患にまで拡張することとなった。このことは予防医学自体の発達とも相俟って，保健科学を大きく飛躍させるとともに，その性格をも巾のあるものとした。そこでは人間の健康を疾病との対応においてのみ考えるのではなく，人權として人間の生きる条件としての考えを加えることとなった。

事実，今日の保健科学は疾病管理とよばれる直接的な健康チェックから，疾病予防を含めたリハビリテーションを含めた，健康の擁護と保持，更には増健的対応までの，明瞭に人間の条件としての健康を対象とする科学へと脱皮しつつある。

一方，体育はプレーや身体運動を通しての人間形成への貢献をめざす，身体運動やスポーツ活動の教育性に重点を置く科学としての発展をみてきたが，ここでも省力化を主体とした生活や社会環境の急激な変化が生んだ課題は，体育科学の対応を人間生活への直接的対応へと拡張した。それは運動不足にともなう生活体としての体力的課題であり健康不安である。

運動不足にともなう体力的課題は人間の成長発達に影響するのみならず，疾病の要因にもなる。事実，多くの成人病の原因には運動不足によるものは決して少なくない。それ故にこそ，それは健康不安と直結する。この課題への対応は体力の正しい把握と，それにもとづく身体的 activity の高い生活プログラムの実践となろう。

元来，体育の教育性のうちにはかかる課題も含まれていなかったとはいえないが，それは生活体としての人間への対応といったものではなかった。体育科学もまた体力科学的課題を加えて，健康な生き方を目ざす科学へと変貌しつつある。

以上，一方は予防医学的アプローチから，また，一方は身体的能力の開発という道程から，その発展過程のちがいはあるが，ともに，人間の豊な生活体としての存続の保証を，実践的方法を含めて究明しようとする科学である。直接的な視点や方法のちがいはあれ，それはまさに目的を一つにするものである。

科学は課題により，また研究手法や思考の経過から， specialize されることによってその進歩をみる場合もあり，また獨自に発展をみたものが integrate されることによって，大きく推進される場合も少なくない。保健および体育に関する科学は明らかに後者の方法がその成果につながると思われる。

なぜならば，発展の経過のちがいはあるが，ともに生活体としての身心を対象とする科学であり，それは丈夫で長生きを目ざすものであるからである。丈夫で長生きは人間の絶えざる願望である。総合保健体育科学とは，この願望を科学として究明しようとするものである。この研究ジャーナルでの蓄積が一歩づつでもその願望への階段としたいものである。

（昭和53年３月）